

## イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)の防除を実施しましょう！

令和元年5月中～下旬に、ヒメトビウンカ第一世代幼虫を麦類ほ場から採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査した結果、県平均が6.5%（平年値6.9%）でした。特に県中南部では、防除が必要とされる10%を超える地点が複数確認され、県北部においても保毒虫率が徐々に上昇傾向にある状況です（表1）。一方、ヒメトビウンカ第一世代幼虫の麦類ほ場での生息密度は、県平均で平年比78%と平年並でした（図1）。5月23日発表の1か月気象予報では、気温は平年より高い見込みです。今後、高温の影響でヒメトビウンカの発生が増加した場合、イネ縞葉枯病の発生拡大が懸念されます。本病の発生拡大を防ぐためにも、適切な防除を実施しましょう。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地点名		年度	H29 2017	H30 2018	R元 2019
県北部	大田原市親園		4.2	2.1	8.3
	大田原市蛭畑		0.0	3.1	1.0
	さくら市松山新田		3.1	6.3	5.2
	高根沢町花岡		2.1	2.1	2.1
県中部	真岡市青田		10.4	15.6	10.4
	宇都宮市横山町		6.3	5.2	10.4
	宇都宮市雀宮		6.3	10.4	9.4
	上三川町上三川		6.3	12.5	13.5
	鹿沼市酒野谷		3.1	7.3	7.3
県南部	下野市小金井		4.2	4.2	3.1
	下野市絹板		11.5	21.9	5.2
	小山市小葉		11.5	5.2	7.3
	小山市石ノ上		13.5	10.4	11.5
	壬生町助谷		8.3	3.1	7.3
	栃木市惣社町		2.1	3.1	4.2
	栃木市大平町真弓		9.4	2.1	5.2
	栃木市藤岡町富吉		2.1	3.1	4.2
	佐野市堀米町		8.3	8.3	5.2
	足利市上渋垂町		6.3	1.0	2.1
県北部平均			2.3	3.4	4.2
県中部平均			6.5	10.2	10.2
県南部平均			7.7	6.3	5.5
県平均			6.3	6.7	6.5



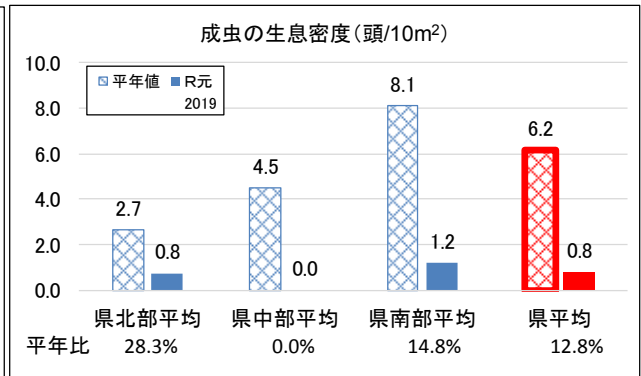
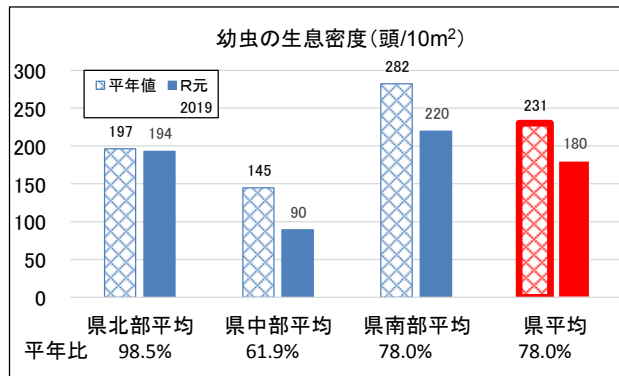
写真1 イネ縞葉枯病の病徴



写真2 ヒメトビウンカ雌成虫

写真3 ヒメトビウンカ幼虫

注：検定サンプルは、令和元(2019)年5月10～27日に麦類ほ場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫  
検定方法：DAS-ELISA法 検定数：96頭/1地点



令和元(2019)年5月10～23日調査

平年比は平成26(2014)年～平成30(2018)年の5カ年平均を平年値とし算出した

図1 ヒメトビウンカ(第一世代)の麦類ほ場における生息密度(頭/10m<sup>2</sup>)

防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用する（表2）。

表2 稲（箱育苗）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤  
（令和元（2019）年5月15日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	RAC コード
<b>●殺虫剤</b>						
スターダム箱粒剤 〈ウンカ類, ニカメイチュウ, フタオビコヤカ〉	育苗箱(30×60×3cm, 使用土壌約5L)1箱当たり50g	移植3日前～移植当日	1回	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I : 4A
フェルテラチェス箱粒剤 〈ウンカ類, ニカメイチュウ, コフノメイカ〉 〈※フタオビコヤカ, イネツムシ〉		は種時(覆土前)～移植当日 ※フタオビコヤカ, イネツムシは移植3日前～移植当日	1回	ピメトロジン クロラントラニリプロール	ピリジンアゾメチン ジアミド	I : 9(B) I : 28
<b>●殺虫殺菌剤</b>						
ルーチンアドスピノ箱粒剤 〈ウンカ類, イネツムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コフノメイカ〉	育苗箱(30×60×3cm, 使用土壌約5L)1箱当たり50g	は種前	1回	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	I : 4A
		は種時(覆土前)～移植当日		スピノサド	スピノシン	I : 5
				イソチアニル	その他(殺菌)	F : P03
エバーゴルワイド箱粒剤 エバーゴルプラス箱粒剤 〈ウンカ類, イネツムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コフノメイカ〉	育苗箱(30×60×3cm, 使用土壌約5L)1箱当たり50g	は種前	1回	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	I : 4A
		は種時(覆土前)～移植当日		クロラントラニリプロール	ジアミド	I : 28
				イソチアニル	その他(殺菌)	F : P03
				ペンフルフェン	カルボキシアミド(殺菌)	F : 7

注1：対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋  
注2：RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの本田防除を、各地域での発生状況に合わせ、地域ぐるみで行う（表3）。なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一系統薬剤の連用を避ける。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤（令和元（2019）年5月15日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	RAC コード
<b>●粒剤</b>						
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I : 4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
<b>●液剤</b>						
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I : 4A
スタークルメイト液剤10						
ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフエン	ピレスロイド	I : 3(A)
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス		

注1：RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。